

 おはようございます！久しぶりの私の話です。今日は、ウナギの話をします。

六月五日にBSS山陰放送から配信されたニュースによると、島根県出雲市の神西（じんざい）湖で、まるで「バナナ」のようなウナギが釣り上げられたとのこと。バナナって古くなると黒い点々が増えてきますね。写真を見ると確かにバナナそっくりの黄色と黒の点々のあるウナギでした。

釣り上げられたのは五月二十八日。普通のウナギの^{1.5}倍の大きさで、十萬匹に一匹の確立で捕れる珍しいウナギなのだそうです。

これで驚いてはいけません。一昨年の二〇二三年の九月には、同じく島根県の飯南町（いなんちょう）来島（きじま）ダムで、全長1m¹⁰cm、体重^{2.9}kgの国内最大級の巨大ウナギが釣り上げられたのだそうです。このウナギは、島根県立宍道湖自然館ゴビウスで一般公開されているので、夏休みに国内最大級のウナギの実物を見たい人は、出かけてみてはいかがでしょうか。

だんだん暑くなってきた、しかも梅雨に入りそうな気配。ここで少し涼しくなるようなお話を。

江戸時代の『古今雑談思出草紙』にこんなぞうだんおもいでそうし』という本によると、今の皇居、昔の江戸城の虎ノ門あたりのお堀の掃除をすることになり、工事監督のような

役の老人のもとに一人の男の人が訪ねてきたのだとか。その男の人は、「今回のお堀の掃除で、たくさんウナギが捕れているとお聞きしていますが、近いうちに四尺（1m²¹cm）ほどのウナギが捕れるでしょう。このウナギはお堀の主ですので、決して殺してはなりません。それから他のウナギたちもなるべく殺しませんように。」と言い、老人は「分かりました。」と答え、その後、麦飯をご馳走された男の人は、そのまま帰っていききました。

次の日、用事があったため、工事現場に昼過ぎに到着した老人は、昨日の話を思い出し、「今日、大きな魚類が捕れたという報告があったか。」と周りの者に聞いたところ、「今朝がた、それは、それは大きなウナギが上がったので、皆で昼のおかずにしてしまいました。不思議なことにウナギの腹を裂いたところ、たくさん麦飯が出てきました。」と。

それを聞いたこの老人は、それ以来ウナギを二度と口にするとはなかったそうです。

江戸時代の人々の間では、「山芋がウナギに化ける」と信じられていたようです。実際、ある男の人が、山で採った山芋のうち数本がウナギになりかかっているのを、都に出て売ったら大金が手に入るだろうと、わらの入れ物に入れて都に。いざ売ろうと中身を見ると、なんとみんな完全なウナギに変わっている。魚屋さんに売ろうとしたら「山芋ウナギ」を

気味悪がって買ってもらえず、仕方なく川に逃がしたというような話も伝わっています。

ウナギって不思議ですね。不思議と言えば、ウナギにはすごいパワーもあって、湿つていて、細かいデコボコのある崖なら垂直に近くても、十五階建てのビルの高さくらいなら登り切ってしまうのだそうです。

利根川をさかのぼってきたウナギが、100m近くの落差のある日光の華嚴の滝の崖を登って、中禅寺湖に入った例もあるのだとか。

つまり、ウナギは山を登ることができるということです。きつと雨の日の夜をねらって山を登り、山頂の池や湖を目指すのだと思います。夜、魚類のウナギが山道を登る（と言っても足がないので、実際は『はう』訳ですが。）のを目撃したとすると、さすがにギョッとするでしょうね。



ウナギの寝床のような、廊下の細長い目白校舎。梅雨時に走り回ってけがなどしませんように。それから、ウナギのパワーは見習うとしてもウナギの真似をして、ビルの垂直の壁をよじ登ろうとするようなことはくれぐれも無いように頼みます。久しぶりの私の話を聞いてくださってありがとうございます。

（立教小学校校長 田代 正行）